



5月16日、愛と和のひと声運動出発式での栗市長

ごあいさつ

平成 29 年 6 月 5 日

6月になりました。梅雨の時期も迎えるのに、水の無い月、「水無月」となぜいうのか不思議に思いました。「無」は「の」連体助詞で「水の月」という意味になります。漢字から受ける印象とはまったく反対の意味があり、ことばの面白さに気づかされます。

1日に市役所において、市の水防会議が開かれました。市役所の関係する部署だけでなく、石川土木総合事務所、警察、消防、そして建設業協同組合や管工事協同組合の皆さんにもご出席いただきました。最近の雨の降り方は、突然、想定を超えるような状況になることがあります。強化化した台風やゲリラ豪雨などによって水害が発生することが考えられます。平地である野々市では土砂崩れといった危険はないと思いますが、二級河川である高橋川、安原川の増水なども想定されるので、そのようなことにも対応できるよう水防体制を整えております。

今年度の防災訓練は8月20日を予定しています。大規模な災害が発生したときは行政だけの力では対応できないことがあります。5月7日に開催された粟田町内大運動会では、災害時に使う段ボールベットを用いた防災競技が行われ、地域の行事のなかで、楽しみながら防災を学ぶ機会を取り入れる姿勢に感心いたしました。それぞれの地域、町内会でも工夫をこらしていることと思いますが、身近な避難所の開設などは周辺にお住まいの方のご協力なくしてはできません。防災訓練に対するご理解のほどをよろしく願いたいと思います。

5月に西部中央と中林の土地区画整理事業の起工式が行われました。西部中央地区は中央公園に隣接していることもあり、健康と交流、そして防災をコンセプトとしています。また、中林地区は県立大学があるので、大学との連携のなかで新たな産業を創り出すことや、学生や大学の関係者の皆さんも含め、夢や創造性が膨らむ環境ができればと思っています。このふたつの地区の道路のネットワークもいい状況で整えることができると期待しています。

野々市は土地区画整理事業により発展してまいりました。ここを舞台として、多くの人が活躍をされ、次代を担う子どもたちが健やかに育っていただけるような環境を整備することが、まちづくりの基本であると思います。

11月にオープンを予定している「ののいち学びの杜カレード」も、その外観が見えてきました。6月定例議会では「学びの杜ののいち条例について」といった関連する議案が上程され、確実に準備が進んでいる感じがいたします。

まもなく、梅雨入りとなります。梅雨は「梅雨前線」と呼ばれる「停滞前線」がもたらす雨のことなのですが、野々市市は「停滞」することなく、次を見据えた、その一歩先を考えていきます。